

3月24日(土) メインスクリーン

10:00 ある精肉店のはなし



12:45 ある夏の記録



15:00 禅と骨



18:00 蘆葦(あし)の歌



料金

●一般

1,600円 (各回入替制)

2作品目以降は1,000円

●高校生以下・シニア・障がい者

1,000円 (各回入替制)

身分証をご持参ください。

●映画祭サポート券 (2日券)

10,000円 (限定20枚)

映画祭を応援してくださるサポートのフリーパス。
3月24日(土)~25日(日)のすべての上映をご覧いただけます。

●映画祭サポート券 (1日券)

5,000円

3月24日(土)もしくは25日(日)のすべての上映を
ご覧いただけます。

予約

大倉山ドキュメンタリー映画祭は予約優先制です。
2月1日(木)より受付を開始いたします。
会場の定員数に限りがあるため、ご予約がないと
入場いただけない場合がございます。
事前のご予約・お問い合わせをお願い申し上げます。

電話: 080-3542-8759 (実行委員会)

090-2257-4895 (薩田[さった])

FAX: 045-434-9270

Email: ookurayamaeiga@yahoo.co.jp

FAX・Emailでのお申し込みの場合は
必ず以下をお伝えください。

①お名前 ③鑑賞したい作品

②お電話番号 ④鑑賞人数

後ほど実行委員会より確認の連絡をさせていただきます。

会場は全自由席です。受付順に整理番号つき
チケットをお渡しし、開場時刻(上映の15分前)
より番号順にご入場頂きます。当日は遅くとも、
上映の10分前までに受付をお越しください。
上映時刻の直前になると当日券のお客様を優
先させて頂くことがあります。余裕を持って
お越し頂くことをお勧めいたします。

カフェ

ドキュメンタリー カフェ Documentary Cafe

映画祭の期間中、大倉山記念館のアンティークな
お部屋で、ドキュメンタリーカフェを開催します。
実行委員会の自慢のケーキ、クッキー、軽食、お飲み物を用意しています。
また、ドキュメンタリー映画のDVDや関連書籍も
お求め頂けます。上映作品の監督と懇談する機会
もあります。どうぞおいしいお菓子やお茶とともに
映画祭をお楽しみください。



保育

港北区子育て支援ボランティア「ポケット」による
保育(1歳以上・定員あり)があります。
利用料としてお子さま1名、1作品上映中につき、
500円のご協力を願っています。ご希望の方は
3月16日(金)までにご予約ください。

電話: 090-2257-4895 (薩田[さった])

ブログ

大倉山ドキュメンタリー映画祭 公式ブログ

<http://o-kurayama.jugem.jp>

最新情報を更新しています



アクセス

会場
横浜市大倉山記念館

東急東横線・大倉山駅下車 徒歩8分
(大倉山駅まで渋谷から30分 横浜から15分)

〒222-0037 横浜市港北区大倉山2丁目10番1号
電話: 045-544-1881 FAX: 045-544-1084
駐車場はございません。ご注意ください。

15:00 やさしくなあに



協賛: ヤジマデンタルクリニック／(有)なんでも舎ケアサービス／こうぼく人と生きもの・支えあう会／
薩田商店／大倉山レモンロード商店会／テラコーヒー／企業組合エコ・アド

協力: セサミ香房／社会福祉法人かれん／野いちご／NPO法人街カフェ大倉山ミエル

第11回

大倉山 ドキュメンタリー 映画祭

2018年 3月24日(土)
25日(日)



Okurayama Documentary Film Festival 2018



『ある精肉店のはなし』『ある夏の記録』『禅と骨』『蘆葦(あし)の歌』
『イヨマンテ 熊送り』『石を架ける -石橋文化を築いた人々-』『石を積む -石垣と日本人-』
『ミリキタニの猫《特別篇》』『福島 生きものの記録 5』『やさしくなあに ~奈緒ちゃんと家族の35年~』

24日土 メインスクリーン

ホール上映 定員80名

10:00 『ある精肉店のはなし』
2013年/108分 監督: 織穂あや



【日本映画撮影監督協会 推薦作】
【平成26年度文化庁映画賞 文化記録映画部門 大賞】
【2013年度キネマ旬報文化映画ベスト・テン 第2位】

★上映後、大久保千津奈がカメラマンの舞台挨拶

12:45 『ある夏の記録』
1960年/90分 監督: ジャン・ルーシュ

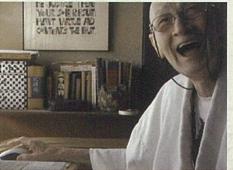


【アンヌティユ・フランセ日本 協力】



ヌーヴェルヴァーグを牽引した、フランスを代表するドキュメンタリー作家・ジャン・ルーシュが、社会学者エドガー・モランと共に、パリの若者達の、幸福について抱く思いを探ろうと試みる映画。「あなたは幸せ?」という問い合わせから、政治意識、絶望、孤独などが浮かび上がる。その映像を若者達に見せ、更に議論を引き出す斬新な手法が素晴らしい。

15:00 『禅と骨』
2016年/127分 監督: 中村高寛



★上映後、中村高寛監督の舞台挨拶

11回目の坂登り。
春、大倉山映画祭…
ドキュメンタリー映画のお祭りです。

大きく息を吸いこんで、
目を凝らし、耳を澄ませて
映画と出逢いましょう。語り合いましょう。

18:00 『蘆葦(あし)の歌』
2015年/76分 監督: 吳秀菁



★上映後、吳秀菁監督の舞台挨拶

『蘆葦の歌』は、台湾の「慰安婦」被害女性6人を描いたドキュメンタリー映画で、新進の呉秀菁（ウ・シウチン）監督が4年かかりで撮影し、完成させた作品である。しかし、この映画はおぞましい性暴力被害の事実を声高に告発するものではない。70年近い歳月を経て、今、老いた彼女たちの日々を丁寧に追い、心の傷がどのように癒やされてゆくかを描いて、静かで日常的な場面が続く……。

24日土 Bスクリーン

会議室上映 定員30名

13:15 『イヨマンテ 熊送り』
1977年/103分 監督: 姫田忠義



【日本映画パンクラブ推薦】
【1989年第3回アリシア・フェルト国際北欧映画祭
「人類の遺産」賞】
【1991年第5回ストニア・ヘルム国際映像人情祭
最高科学ドキュメンタリー賞】

イヨマンテは熊の魂を神の国へ送り返すまつり。アイヌ民族にとって熊は狩猟対象であり、神であり、親しみと畏敬の対象だった。熊は神の國から毛皮の着物を着、肉の食べ物を背負い、万病の薬を持って人間の世界へ来てくれる。そのお礼にお土産を持たせ送り返すとアイヌは言ふ。1977年3月、「本物のイヨマンテを覚えておきたい」というアイヌの青年たちの熱意に支えられ、イヨマンテは実現した。

15:30 『石を架ける -石橋文化を築いた人々-』
1996年/39分 監督: 田部純正



【第34回日本産業映画ビデオコンクール大賞】
【第43回優秀映像教材選奨優秀作品賞】
【第17回土木学会映画ビデオコンクール最優秀賞】
★『石を積む -石垣と日本人-』と併映

江戸末期、日本に石橋文化を築いた肥後の「種山石工」。彼らの石橋は堅牢無比と評され、その技術、巧まざる造形の美、環境と調和した素材、歴史性、いずれにおいても高い価値をもつ文化財です。この映画は、現存する様々な石橋を訪ね、その歴史や石橋誕生のエピソード、人々が橋に託した夢、橋が地域生活に与えた影響、完成された造形美などを描きながら文化遺産、土木遺産としての石橋の価値、その大切さを強く訴えています。

『石を積む -石垣と日本人-』
2001年/53分 監督: 田部純正



【平成13年度文化庁優秀映画大賞】
【第56回毎日映画賞】
★『石を架ける -石橋文化を築いた人々-』
と併映

石垣は城の景観に代表される日本独特の文化です。一方、城石垣とは別に、「民衆の石垣」とも呼ぶべき石垣があります。耕して天に至る段々畑や田毎の棚田です。これらの石垣には、山と谷の国土に住むひとびとが當々と築いてきた血と汗と切なる思いが込められていきました。この映画は、土木の原点ともいべき「石を積む」という基本行為から、日本における土木の歴史的遺産を掘り起こしています。

17:02 カメラマン・トーク

映画のカメラの後ろには必ず撮影者がいます。撮影者は対象となる被写体を映像として記録する重要な役割を持っています。時代を記録し続けるドキュメンタリーカメラマンたちは、何を考えてカメラを廻しているのか?

本映画祭の上映作品を撮影した3人のカメラマンに語ってもらいます。(18:00終了予定)

登壇者 高橋慎二さん 撮影『石を架ける』『石を積む』
大久保千津奈さん 撮影『ある精肉店のはなし』
明石太郎さん 撮影『福島 生きものの記録 5』

★ 映画祭チケットをお持ちの方は参加無料

25日日 メインスクリーン

ホール上映 定員80名

10:00 『ミリキタニの猫《特別篇》』
2006年&2016年/計95分 監督: リンダ・ハッティンドーフ



★上映後、Masaプロデューサーの舞台挨拶

12:30 『福島 生きものの記録 5』
2017年/95分 監督: 岩崎雅典



★上映後、岩崎雅典監督の舞台挨拶

ニューヨークの路上に在住、猫を描く80歳のホームレスアーティスト、ジミーは広島育ちの日系アメリカ人。女性監督リンダとの偶然の出会いをきっかけに、このじーちゃんの激動の人生、さらに路上生活と戦争のつながりがみえてくる。

そして、9.11世界貿易センター事件を機に彼の人生は再び劇的に変化する。数々の賞を受賞した「ミリキタニの猫」に、知られざる過去に迫った新作短編「ミリキタニの記憶」を併せた2本組み特別篇。

15:00 『やさしくなあに ~奈緒ちゃんと家族の35年~』
2017年/110分 監督: 伊勢真一



【2017年キネマ旬報文化映画ベスト・テン第3位】

★上映後、伊勢真一監督と
西村信子さん(奈緒ちゃんの母)の舞台挨拶

1983年のクランクインから35年間、カメラは障がいのある奈緒ちゃんとその家族の日々を振り続けました。『奈緒ちゃん』『びぐれっと』『ありがとう』…三本の作品にまとめられた奈緒ちゃんシリーズの第4弾。

横浜市・泉区を舞台にした、ドキュメンタリー史上例のない35年の家族の記録です。家族それぞれの、思いや悩み…。家族とは? やさしさとは? 生きるとは? !ケンカしながらいなければ、やさしくなあにって言わなくちゃ…。

17:05 ドキュメンタリー・トーク

上映作品の監督×
伊勢真一監督×
三浦淳子監督×
飯田基晴監督×
高橋慎二カメラマンが登壇します。

★ 映画祭チケットをお持ちの方は参加無料



第9回映画祭のトーク風景

●上映後の舞台挨拶は、ゲストのやむえない事情により、変更、中止されることがあります。
●大倉山ドキュメンタリー映画祭は、映画の作り手、映画好きの市民、地域の福祉事業所などが集まり、ボランティアで開催している映画祭です。